

被爆地長崎の発言の重みを実感

SNPT再検討会議第一回準備会に参加して

廣瀬方人(城山憲法九条の会世話人)

四月三十日から五月十一日までウィーンで行われたNPT再検討会議準備会に非核特使として参加した。田上市長の被爆地長崎からの訴えには多くのメディアや各国外交官が一斉にカメラを向けるのを見て、被爆地長崎からの訴えに世界が注目していることを実感した。

被爆者である私の任務は二つ。被爆の実相を伝えること、そして被爆者の思いを訴えること。四・八キロの小菅町で被爆したときの様子を詳細に話した。そして、同居していた従兄が爆心地付近の町工場にいて遺体も何も残らなかったこと、息子を探しに行った伯母がヤケドもケガもしていなかったのに、五日目に高熱、鼻血、歯茎からの出血、そして頭の毛が抜けて苦しみながら死んだことを話した。

参加者からは次のような熱心な質問がたくさへ寄せられた。

① どのくらいの人間が死んだのか？(そんな初歩的なことも知らないのかと改めて事実を知らせることの大切さを思った。)

② 原爆が投下された時、何を思ったか？

米軍の飛行機が自分の工場を狙ったと思ったが、実は長崎中の市民がみな自分の家のすぐ傍に爆弾が落ちたと思った。原爆はたった一発だったが、火葉爆弾に換算すると二万一千発の威力だった。さらに、熱線、爆風、放射能についても述べた。

③ その後、どんな生活をしていたか？

④ 被爆者が反核運動を始めたのはいつ頃、どんな形で？

⑤ 福島で原発事故が起こったが、原発についてはどう思っているか？

⑥ 原爆投下が直接日本の降伏に繋がったと思うか？



「憲法を守る」に参加して

山口秀樹(城山憲法九条の会世話人)

五月四日(金)に本蓮寺から聖徳寺までの「憲法さるく」に参加しました。二六聖人記念館コースを加えると、五十名を超える参加者のようでした。

私は初参加でしたが、もう六、七回目らしく、みなさん「さるくスタイル」が決まっていました。井田会長の、クリシタン弾圧のような人権抑圧の歴史も学べるコースをじっくりのご挨拶、南蛮井戸を含む中庭のガイドを聞くうちに、そうか今日は長崎歴史散歩なのだと思えました。

そう了解してみると、いつも車で通っている道の下にあった「首塚」や、足を踏み入れたことがなかった「長崎街道」は大変興味深い風景でした。左手の崖下は海でしたと言われるたびに、車の騒音が波音に聞こえるような感じで(ちよつと大袈裟)、ビルに埋まった長崎港を見下ろし、海沿いのきりたった細い道だったのだなと思われました。

山際にある小さな生目八幡宮、銭座天満宮も、賑わっていたころの姿が偲ばれました。終点の聖徳寺は、時間がなかったこともありましたが、キリ

シタンや部落との関わりをもう少し聞きたかったと思いました。

さよなら原発！佐賀集会

水谷厚子(城山憲法九条の会世話人)

五月二十七日(日)「さよなら原発」佐賀集会(佐賀市どんどんの森)に参加しました。九州各県から二千人を超える人が集いました。

集会では、「原発はいらない」「再稼働ゆるさないう」「廃炉しかない」等とたくさんの方が訴え。福島から避難してきたお母さんの「息子が下痢や鼻血に苦しみ、今も熱が出たりして体調が良くないと放射能の影響を考えてしまいます」との訴えに、涙、涙。集会後は県庁までパレード。

私は原発ゼロをめざす連絡会のマイクロバスで参加しましたが、バスの中は学習会会場となり、その中で平和委員会の富塚さんがみんなの疑問・質問に答える形となり、「全国の原発が止まったからといって安心してはいけません。原発は動かさなくても三十年、四十年と冷やし続けなくてはならない。」と話されました。原発は怖いのです。

事故から一年以上たった今頃、放射能測定で隠されたデータが明らかになる、この国は一体どうなっているの？原発はいらない！再稼働ノー！の声をもって大きく響かせ、脱原発のために力を合せて頑張ろう！

さよなら原発の署名は六月一日現在、七百五十万筆になっています。引き続き一千万になるまで取り組みます。よろしくお願ひします。

